聞　第3種郵便物認可

小田原「江戸時代景観ゾーン」も

小田原箱根商工会議所は29日、小田原駅や小田原城天守閣周辺などの再開発構想「平成の城下町・宿場町構想」を打ち出した。観光を軸とした地域間競争が激化する中、小田原単体でも観光客を呼び込めるよう、地域特性を生かした6ゾーンを整備。約400年の歴史を誇る「歴史・文化テーマパーク」を目指す未来予想図を描いている。

（田口　要）

現代の城下町 未来へ青写真

小田原箱根商工会議所の「平成の城下町・宿場町構想」が発表された創立70周年記念式典　＝湯本富士屋ホテル

観光 軸に商議所が再開発構想

構想は、①小田原駅前周辺を「イキイキと元気に暮らしたくなるゾーン」②お堀端通りなどを「江戸時代景観ゾーン」③かまぼこ通りなどを「小田原宿体験ゾーン」④南町や板橋などを「歴史文化体感ゾーン」⑤御幸の浜から早川漁港までを「海のなりわい体感ゾーン」⑥総構え（大外郭）―の6ゾーンに区分する。

①は現ロータリーを広場にし、再開発予定地に移動したロータリーを和風建築で統一。東口でも観光バスの乗降を可能にする。②はお堀端通りを城へと通じる参道と捉え、店舗や建物の意匠デザインを統一するなどして江戸時代の景観や風情を感じる街並みにする。大手門を復元し、北条五代の歴史を学ぶ「北条歴史博物館」なども整備する。

③は小田原ちょうちんや小田原漆器づくりなど体験して楽しむ場、④は邸園などの歴史文化を学びながらまち歩きできる場に位置付ける。⑤は海水浴やマリンスポーツ、漁業体験など海の文化を満喫できる。

商議所創立70周年記念事業として、地元企業や商店街、自治会、鉄道事業者などでつくる専門チームが約4カ月間で作成。29日に箱根町内のホテルで約400人が出席して開かれた創立70周年記念式典の第2部で発表した。

第1部であいさつに立った鈴木悌介会頭は「地域での経済循環を重視した、持続可能な地域経済のあるべき姿をしっかりと描いていきたい」と決意を示した。